

森田 有紀子さん (東邦大学薬学部卒)

自己+他己分析が役立つ

—今の進路を選択した時期と理由を教えてください。

就職を意識し始めたのは4年生ぐらいいました。2年生の終わりの3月に当社のインターンシップに参加したのですが、その時は就活のことは考えていませんでした。ここで働きたいと決めたのは5年生の終わりの3月でした。

—インターンシップに参加したきっかけは何ですか。

インターンシップに参加した先輩が、参加するなら早ければ早い方がいいとおっしゃっていて、その言葉通りに申し込みました。2年生では座学の基礎科目の授業が多いので、薬学部を卒業された方が現場で働いている姿を見るために参加しました。

—就職先を薬局に決めた理由は何ですか。

直接患者さんと話せる仕事がいいと思ったからです。選択肢を狭めないように企業も考えたり、病院と薬局で迷ってしまいましたが、人々の日々の生活にできるだけ長く深く寄り添いたいという気持ちから薬局への就職を決めました。

—学生時代に思い描いたキャリアプランを教えてください。

就職を本格的に意識し始める前の4年生の夏には、5年生の実務実習が終われば自然と進路が決まるはずと考えていました。でも、終了後も進路のことで悩んでいました。自分がどんな薬剤師に

なりたいかを紙に書き出してみた時に、患者さんに「あなたに会いにきたよ」と言ってもらえる薬剤師や、来た時よりも帰る時に患者さんが笑顔になれる薬剤師になりたいと思いました。

—結婚や妊娠など女性ならではのイベントについて考えましたか。

すごく考えました。若いうちに結婚して子どもを産んで、子育てが落ち着けばまた仕事に復帰する予定でしたが、実際は違うものですね。

—就職を意識してから最初に行ったことは何ですか。

自己分析から始めました。薬学部の学生は意識しなくても就職できますが、他学部の友達が真剣に自己分析していたことがきっかけで始めました。自己分析は個人の価値観が客観的に反映されるので、進路に迷った時の手助けになります。また、就職に関係なく、遊び感覚で気軽に取り組んでもいいと思います。

—ほかに意識したことはありますか。

自己分析とセットになる他己分析も行いました。周りから自分がどう見られているかは自分ではあまり分からないけれど、人からの評価は社会ではとても大切です。仲のいい友達と自己分析について話した時に、一緒に他己分析もしたという形ですね。

—就職活動でやって良かったこと、やっておけば良かったことを教えてください。

インターンシップに参加して良かったですし、もっと参加しても良かったと感じています。インターンシップが就職説明会のようなもので終わってしまったので、長めのインターンシップに参加



するなど現場をより深く知ろうとするべきでした。OBやOGを訪問するなどもっと社会の方と関わる機会を増やしても良かったと思います。また、長期間プライダルスタッフのアルバイトをしましたが、いろいろな人に出会い丁寧に接することを意識して仕事に取り組めたことは良い経験でした。アルバイトは学業と両立しながら、自分のペースでやりたいようにやるのが良いと思います。

—薬学生に一言お願い致します。

国家試験合格が最終目標になりがちですが、その先の社会での活躍が目的だということを忘れないようにしてほしいです。その先の目標は、たくさん悩んでたくさん考えてください。誰かの話を聞くだけではなく、自分の目で見て感じることも大切にしてください。

Q 薬学部4年生です。就職先を考えるにあたり、とにかく「お金が欲しい」のです。昔からそう思っていました。薬剤師職はあまり稼げるイメージがありません。どこに就職したらいいのか、まったく分からないので教えてください。

A 人が働くモチベーションリソース(やる気の源泉のこと)にはいくつあって、その一つに「報酬」があります。高額な報酬がモチベーションになる人は多くいます。私は全く異論ありませんよ。

さて、お金が欲しいとのことですが、まずは「得たい収入目標」を決めましょう。例えば、30歳でどのくらいの年収を目標とするのでしょうか? 1000万円でしょうか。

大学の新卒者を年収1000万円で募集している企業はいくつかあります。D X

薬学生 キャリア相談 Q&A



キャリア・ポジション
代表取締役
西鶴 智香

高収入を得られる就職先は?

コンサルタント、語学力のある幹部候補生等、高いスキルがあればいきなり高年収での採用もアリです。薬学部卒で楽天やAmazonに就職した方もいるので検討してみてください。

国税庁の調査によれば、平均年収の高い業種は電力やガス業、銀行や証券・保険業、情報通信業などです。薬学部卒でこれら3業種での就職も可能だと思いますので、調べてはどうでしょうか。

ちなみに国税庁の調査によると日本で年収1000万円以上の給与所得者の割合は男性7.1%、女性1.1%です。日本の全年代含む平均年収は男性532万円、女性293万円。こういったデータも参考にしてください。

最後に二つアドバイス。年収が高めの企業だからといって、社員全員の年収が

高いわけではありません。給料は、「やった仕事に対する会社からの評価」によって決まります。評価が高く、管理者になれば年収も上がります。

若くして高年収を実現できる職種は社長です。私は30歳で独立しました。20代はできるだけいろいろな仕事を経験させてもらって、それを礎に30代で独立という働き方もありますよ。独立のメリットは、自分がやった仕事の成果がすべて売上(収入)となって返ってくるということです。もちろん、自分の仕事が相手に評価されなかったらノーリターンのリスクもあります。「毎月定額の収入がある社員のほうがいい」と思うかもしれません。

さて、高年収を得る道はいくつかありますが、どれを選択しますか? 具体的に考えてみてください。

薬のことなら 薬事日報ウェブサイト

『薬事日報』に掲載される記事を中心に、医薬業界のニュースサイトとして成長を続けています。読者の約8割が医薬業界に属しており、医薬業界のニュースサイトとしては最大規模に成長しています。医薬業界の情報収集にご活用ください。

「薬学生新聞」もウェブサイト公開中!!

https://www.yakuji.co.jp